KC#476

KC#476 技術的背景

BV により提案された回答は、完全に CSR で適用されている国際満載喫水線上宅（ILLC）15 規則(6)及び 16 規則(5)に基づいている。ILLC の抜粋をここに追記する。

ポンツーンハッチカバー

提案された解釈は、以下のとりである。

ハッチカバーが、ターポリンとバッテンを用いて風雨密と考えられる場合、使用される許容応力は、表 2 の“ポンツーンハッチカバー”に対応する応力 0.68ReH とする。これは、ILLC15 規則(6)に合致する。

ILLC15 規則(6)は、以下のとおりである。

(6). 可搬式梁及びカバーに代えて使用されるポンツーンカバーは、鋼製の場合、強度は、16 規則(2)から(4)に従って計算されなければならない。また、計算された最大応力と係数 1.47 を乗じた値は、材料の降伏強度を超えてはならない。それらは、撓みの制限がスパンの 0.044 倍以下となるよう設計されなければならない。カバーの頂板を校正する軟鋼の板は、防撓材間隔の 1%の厚さ又は 6mm の大きい方の値以上としなければならない。

ハッチカバーの最小設計荷重

提案された解釈は、以下のとおりである。

ハッチカバーが、ターポリン及びバッテンなしに、構造により風雨密と考えられる場合、使用される許容応力は、表 2 の“風雨密ハッチカバー”に対応する応力 0.8ReH とする。これは、ILLC16 規則(5)に合致する。

ILLC16 規則(5)は、以下のとおりである。

(5). すべてのハッチカバーは、以下のとおり設計されなければならない。

(a). 上記荷重により決定される最大応力と係数 1.25 を乗じた値は、引張り強度において材料の降伏強度及び圧縮において限界座屈応力を超えてはならない。

(b). 撓みは、スパンの 0.056 倍以下でなければならない。

(c). カバーの頂板を校正する鋼板は、防撓材の間隔の 1%の厚さ又は 6mm の大きい方の値以上としなければならない。

(d). 適切な腐食予備厚が考慮されなければならない。